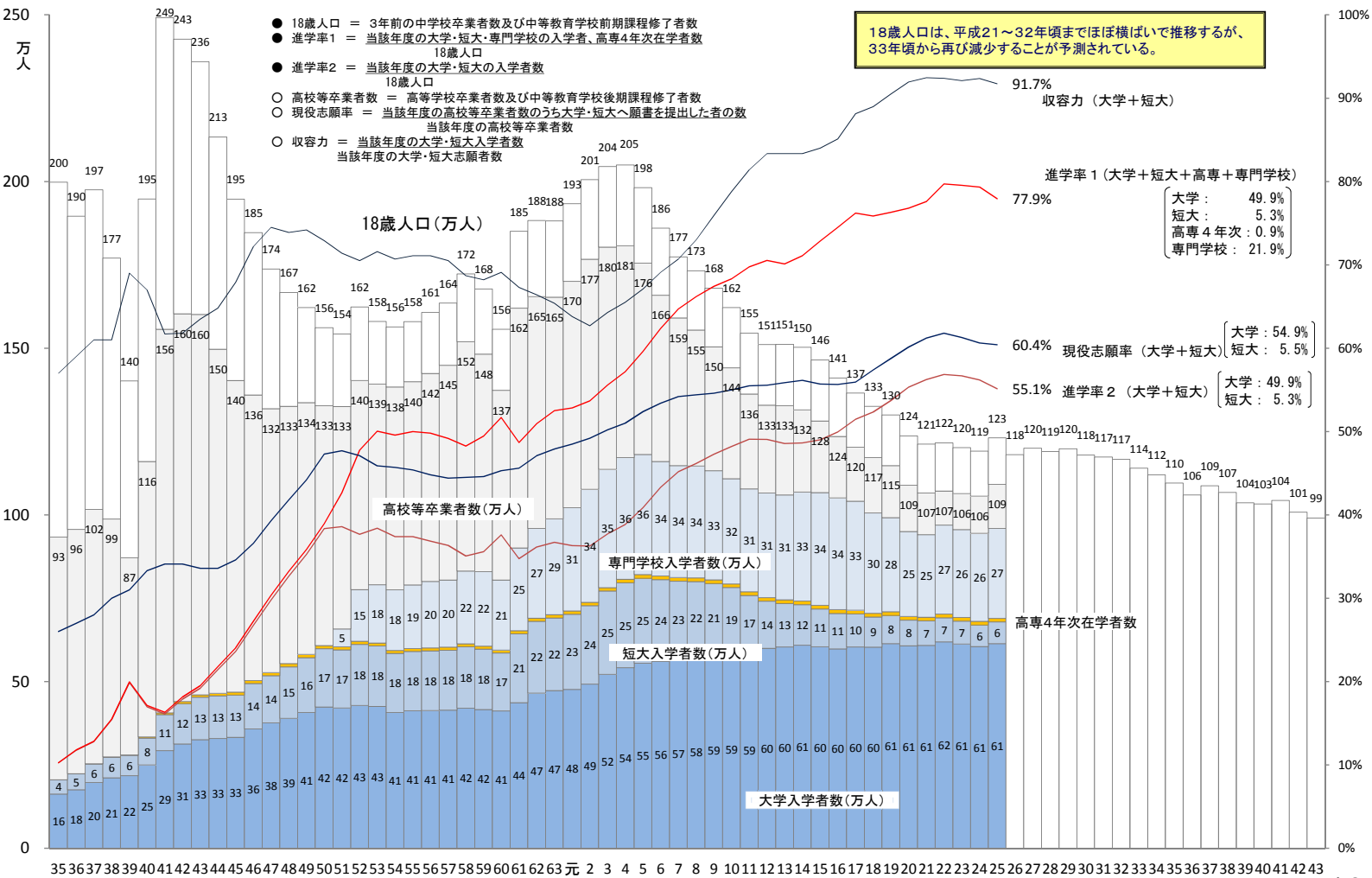


2. 大学教育の現状

18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移



入学定員、入学者数等の推移【長期的傾向】

- 4年制大学の入学定員は増加しているが、短期大学は大幅に減少。
- 志願倍率、入学定員超過率ともに減少傾向。

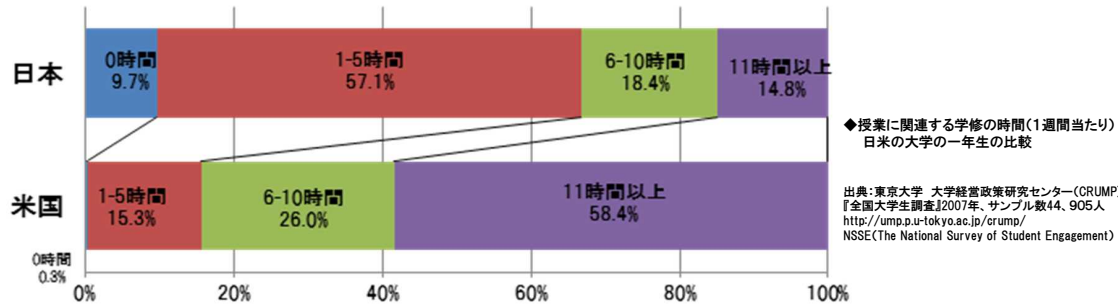
(単位) 千人

	18歳人口	高等学校 卒業生	大 学					短 期 大 学				
			入学 定員	志願 者数	志願 倍率	入学 者数	入定 超過率	入学 定員	志願 者数	志願 倍率	入学 者数	入定 超過率
昭和41年	2,491	1,557	195	513	2.63	293	1.5	68	137	2.01	108	1.59
昭和51年	1,543	1,325	302	650	2.15	421	1.39	124	184	1.49	175	1.41
平成4年	2,049	1,807	473	920	1.94	542	1.14	203	294	1.45	255	1.25
平成11年	1,545	1,363	525	756	1.44	590	1.12	176	175	1	169	0.96
平成16年	1,411	1,235	545	722	1.32	598	1.1	106	106	1	106	1
平成17年	1,366	1,203	552	700	1.27	604	1.1	100	98	1	100	1
平成18年	1,326	1,172	562	691	1.23	603	1.07	96	89	0.92	91	0.95
平成19年	1,300	1,147	567	690	1.22	614	1.08	92	82	0.89	85	0.92
平成20年	1,237	1,088	570	670	1.18	607	1.06	88	74	0.85	77	0.88
平成21年	1,212	1,065	572	669	1.17	609	1.06	83	69	0.83	73	0.88
平成22年	1,216	1,071	575	680	1.18	619	1.08	79	67	0.85	72	0.91
平成23年	1,202	1,064	578	675	1.17	613	1.06	76	65	0.86	68	0.9
平成24年	1,191	1,056	581	664	1.14	605	1.04	72	61	0.85	64	0.89
平成25年	1,231	1,092	584	679	1.16	614	1.05	70	61	0.88	65	0.93

文部科学省「学校基本調査」(平成25年度は速報値)、「全国大学一覧」、「全国短期大学一覧」を基に作成

学生の学修時間の日米比較及び各大学における学習環境整備の例

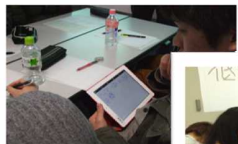
日本の学生の学修時間は
米国に比べて少ない。



出典:東京大学 大学経営政策研究センター(CRUMP)
『全国大学生調査』2007年、サンプル数44,905人
<http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/>
NSSE(The National Survey of Student Engagement)

小樽商科大学 アクティブラーニングのための 教育環境整備

「学生の主体的な学びの確立」を目標とし、実践的な取組を活用したアクティブラーニングのための教育環境を整備。グループワーク、プレゼンテーション、ディベートなどの手法を実践し、学生が自ら考える力やコミュニケーション力を強化する。



学生が意見を
タブレットに
入力



ディスカッションテーブルに意見や
データを送信し意見交換

同志社大学 ラーニング・commonsの整備

延床面積が約2,500m²を超える、日本の大学では最大級の「ラーニング・commons」を整備。建物2階は「学びの交流と相互啓発」をコンセプトに、プレゼンテーションのためのオープンスペースや国際交流のエリア等を整備。3階は「アカデミックスキルの育成空間」として、チューターが常駐するアカデミックサポートエリアやグループ研究のためのスペース等を整備。



早稲田大学 ライティングセンターの整備

個別指導によりアカデミック・ライティングを支援する「ライティングセンター」を整備。専門的な訓練を受けた学内の大学院生がチューターとなり、授業レポート、プレゼンテーション原稿から卒論まで、日本語・英語によるサポートを実施。ペーパーをよくすることではなく自立した書き手の育成を目指す。

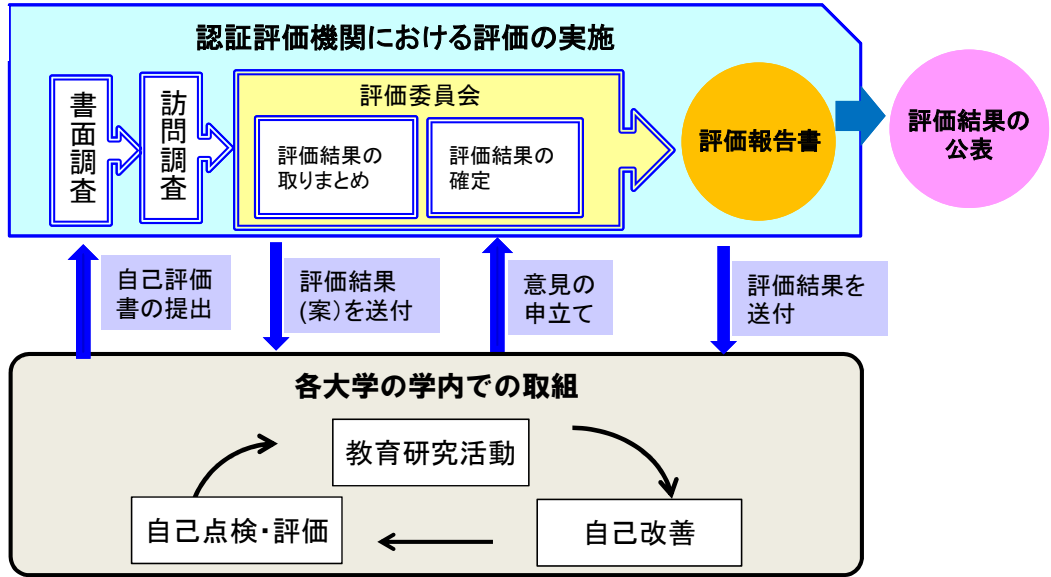


認証評価制度

学校教育法第109条により国公立大学(短期大学を含む。)及び高等専門学校は、その教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況に関し、7年以内ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関(認証評価機関)の実施する評価を受けることが義務付けられている。(専門職大学院については、教育課程、教員組織その他教育研究活動の状況に関し、5年以内ごとに評価)

認証評価機関は自ら定める大学評価基準に基づいて評価を行う。大学評価基準については文部科学省令において大枠が定められており、各認証評価機関はこの大枠の範囲内で具体的な基準を定めることとなる。

認証評価のプロセス



情報公表に関する取組

(1) 大学の情報公表に関する取組

平成23年4月 学校教育法施行規則の改正により各大学が公表すべき教育情報を具体的に明確化。

学校教育法施行規則(抄)

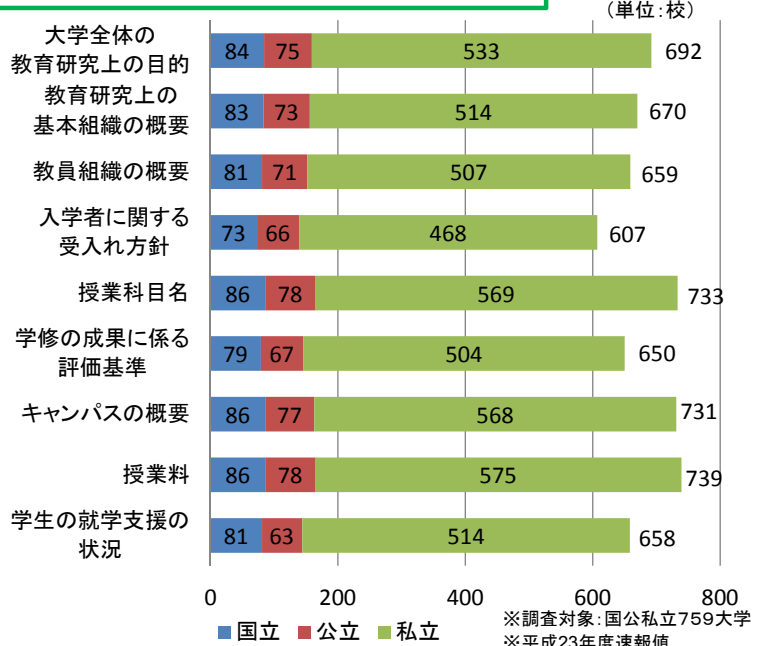
1. すべての大学で公表すべき事項(第172条の2第1項)

- (1) 教育研究上の目的(学部・学科・課程等ごと)
- (2) 教育研究上の基本組織(学部, 学科, 課程等の名称)
- (3) 教員組織, 教員数(男女別・職別), 教員の保有学位・業績
- (4) 入学受入方針, 入学者数, 収容定員, 在学者数, 卒業生数, 卒業後の進路(進学者数, 就職者数, 主な就職分野等)
- (5) 授業科目の名称, 授業の方法・内容, 年間授業計画
- (6) 学修成果の評価の基準, 卒業認定の基準
- (7) 校地, 校舎等の施設・設備その他の教育研究環境(キャンパス概要, 運動施設の概要, 課外活動の状況とそのため施設, 休息を行う環境, 主な交通手段等)
- (8) 授業料, 入学料その他の費用徴収, 寄宿舎・学生寮等の費用, 施設利用料等
- (9) 学生の学修, 進路選択, 心身の健康等の支援(留学生支援や障害者支援等の様々な学生支援を含む)

2. 公表に努めるべき事項(第2項)

- 教育課程を通じて修得が期待される知識・能力体系(どのようなカリキュラムに基づき, どのような知識能力を身に付けるか)

ホームページにおける情報の公表状況



(2) 大学ポートレート(仮称)の検討状況

平成23年8月 「大学における教育情報の活用支援と公表の促進に関する協力者会議」

◇データベース等を用いた教育情報の活用・公表のための共通的な仕組みの構築について提言

平成24年2月～ 大学ポートレート(仮称)準備委員会での検討を開始

平成24年11月 大学ポートレート(仮称)準備委員会において、教育情報の公表の在り方や公表する情報項目等について、準備委員会ワーキンググループの検討経過を報告

現在、平成26年度中の「大学ポートレート(仮称)」の本格稼働に向けて準備委員会で検討中

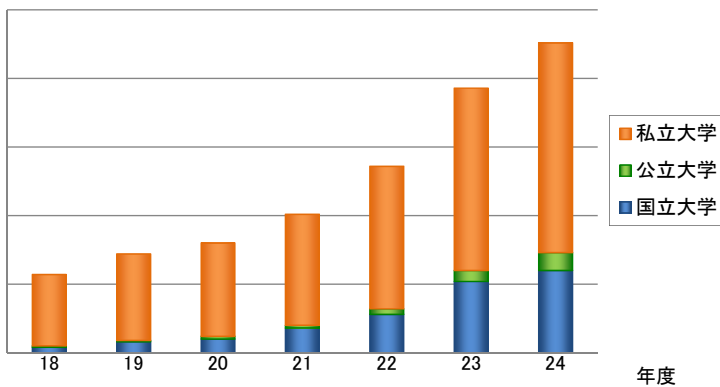
- ・アクティブ・ラーニング・スペース(複数の学生が集まって、様々な情報資源を用いて学習を進めることができるスペース)を設置する図書館数はこの3年間で2倍に増加しており、平成24年5月1日現在では226館(うち中央図書館は159館)になっている。
- ・アクティブ・ラーニング・スペースでは、グループ学習スペース(210館)のほか、共用スペース(129館)、プレゼンテーションスペース(122館)などが整備され、学習・研究サポート(115館)などのサービスが提供されている。

・アクティブ・ラーニング・スペースの設置図書館数
(各年度末日現在、H24年度は5月1日現在)

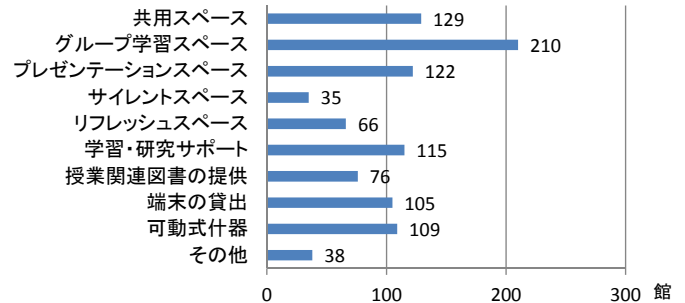
単位:館

年度	18	19	20	21	22	23	24
国立大学	4	8	10	18	28	52	60
公立大学	1	1	2	2	4	8	13
私立大学	52	63	68	81	104	133	153
合計	57	72	80	101	136	193	226

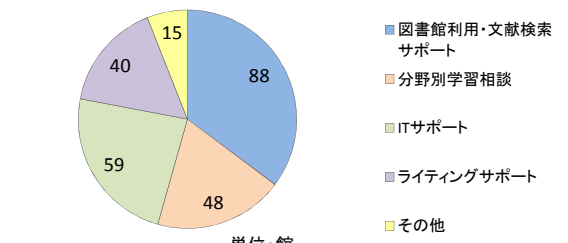
館



提供している施設・サービス(複数回答可)



学習・研究サポート内訳(複数回答可)



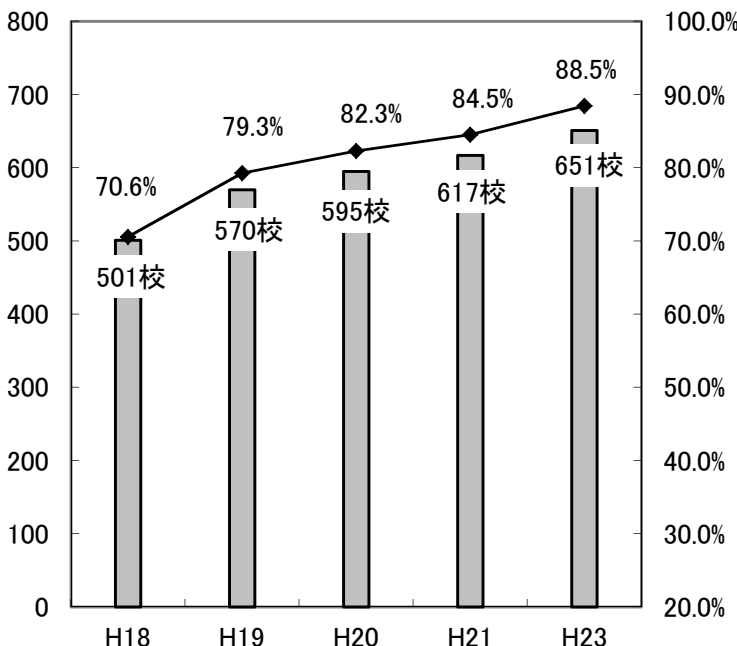
平成24年度「学術情報基盤実態調査(大学図書館編)」より作成

初年次教育の実施状況

大学進学者が多様化する中、多くの大学では、大学教育への円滑な移行を図るための初年次教育を実施している。

[参考] 初年次教育:高校から大学への円滑な移行を図るため、大学新生を対象に作成される総合的教育プログラム。新生に大学教育の最初において提供されるものであり、高等学校で学ぶべきことを補完する補習教育とは異なる。

○初年次教育の実施状況(大学学部の状況)



※平成22年度については、東日本大震災の影響を考慮し、調査を実施していない。
※平成23年度の値については速報値。

○初年次教育の具体的な内容(例)

- レポートや論文の書き方などの文章作法
- プレゼンテーション、ディスカッションなどの口頭発表技法
- コンピュータを用いた情報処理や通信の基礎技術
- フィールドワークや調査・実験の方法
- 情報収集や資料整理の方法
- 論理的思考や問題発見・解決能力の向上
- 学問や大学教育全般に対する動機付け
- 将来の職業生活や進路選択に関する動機付け
- 社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観
- メンタルヘルスなど、精神・身体的健康の保持
- 学生生活における時間管理や学修習慣